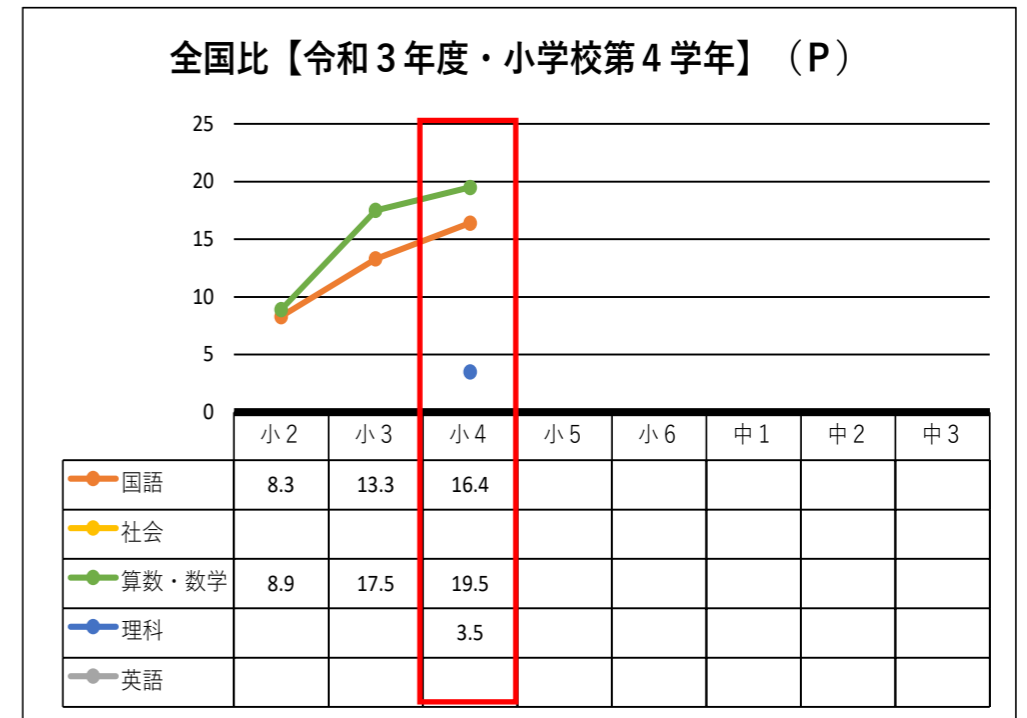
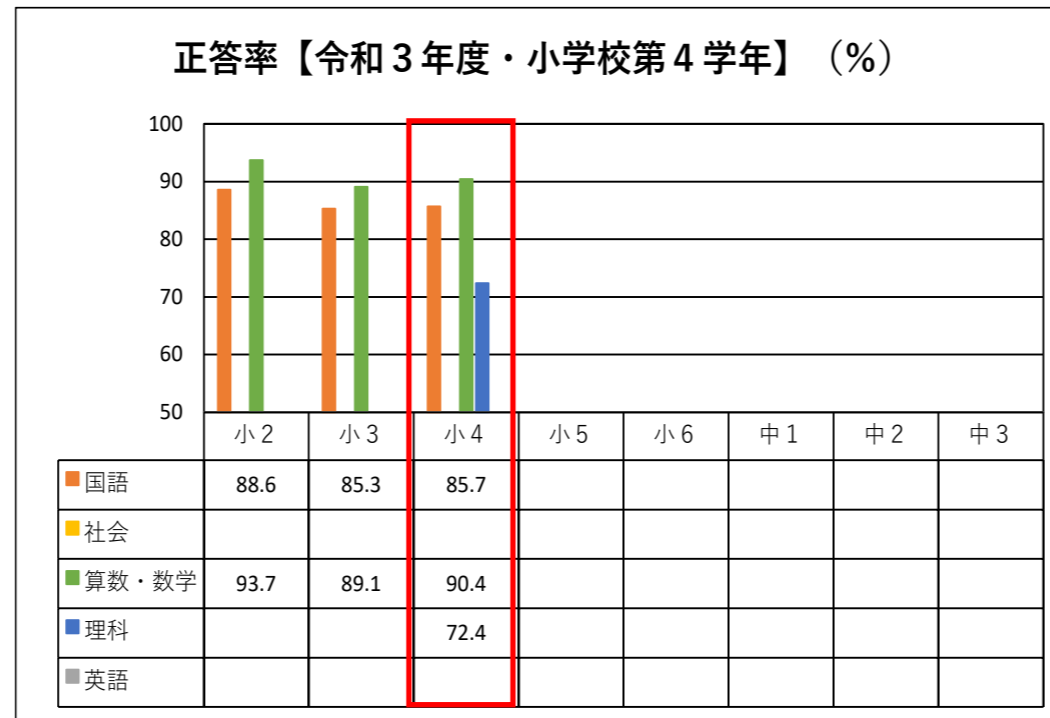
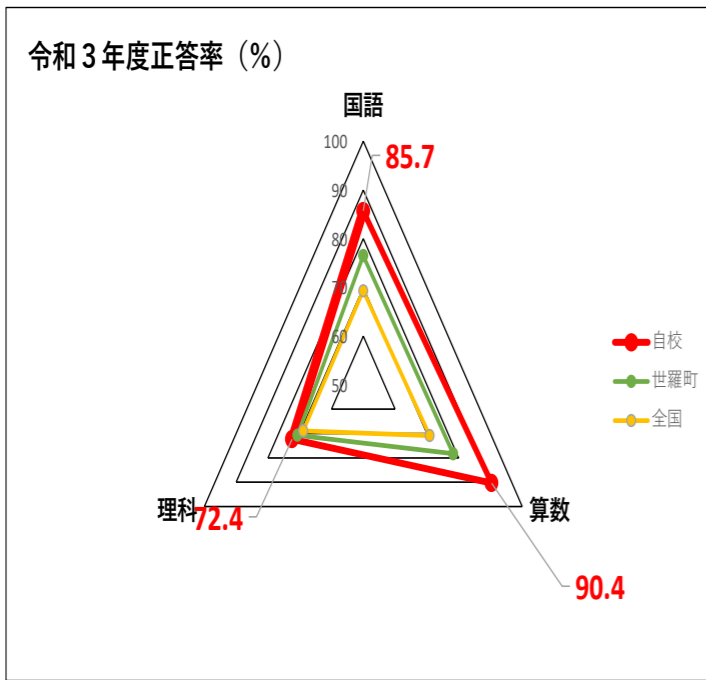


令和3年度標準学力調査 指導方法等の改善計画【せらにし小学校 第4学年】



教科	正答率 (%) 【全国比 (P)】	課題となる 観点	問題番号・出題のねらい ＜学習指導要領＞	自校正答率 【全国比】	児童の誤答の傾向と分析 (○)、教育指導上の要因分析 (●)	課題改善のための＜指導場面 (指導時期)＞と具体的な取組	目標値	検証値 【4月調査比】
国語	教科全体	85.7 【+16.4】	思考・判断・表現 6 (1) 目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。＜小学校3・4年思判表B (1) ア＞	35.3% 【+0.3P】	○メモを基にして文章がどのように書いてあるか答える問題において、誤答である「調べて分かったことを、全てをさらずに書いている」という選択肢を選んだ児童が、正答の選択肢を選んだ児童より多かった。メモの箇条書きの項目だけを見ており、○で囲まれた部分が文章には書かれていないことに気付けない児童が多かった。 ●メモと文章を比較させ、どのような工夫がなされているか見つけさせる指導が不十分であった。	＜メモを基に文章を書く授業 (7月・12月)＞ 文章を書く目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にして文章にまとめる力を育てる。 ＜並行読書 (通年)＞ 説明的な文章を読み、それを要約したり、自分の思いや考えをまとめて書いたりする活動を継続して行う。	正答率 60%	% 【P】
	知識・技能	87.0 【+16.9】						
	思考・判断・表現	82.0 【+19】						
	主体的に学習に取り組む態度	88.2 【+30】						
算数	教科全体	90.4 【+19.5】	思考・判断・表現 14 35×14の工夫した計算のしかたを説明している。＜小学校3年A (3) イ (ア)＞	58.8% 【+21.4P】	○例題 (15×18)の工夫した計算のしかたを基に、35×14の工夫した計算のしかたを考える問題において、見本の計算の工夫を理解した上で、×14を×2×7に分けて計算すると良いことに、気付いていない児童が多かった。 ●筆算以外の方法で、大きな数のかけ算を計算する方法を考えさせる指導が不十分であった。	＜かけ算の授業 (6月・12月)＞ 乗法の意味や計算方法を理解させる。その上で工夫した計算方法について、既習の計算方法から類推して計算方法を考え、考えたことを友達と話し合う中で、工夫して計算する感覚を育むとともに、工夫して計算することの良さを味わわせる。 ＜宿題・帯タイム等 (通年)＞ 計算の仕方を工夫することを問う問題に、継続して取り組ませる。その際、時には例題を提示し、例題を基に計算の仕方の工夫を考えさせる。	正答率 80%	% 【P】
	知識・技能	92.9 【+19.5】						
	思考・判断・表現	81.5 【+19.7】						
	主体的に学習に取り組む態度	89.9 【+20.6】						
理科	教科全体	72.4 【+3.5】	思考・判断・表現 12 (3) 容量の大きい飲料の容器にプラスチックが使用されている理由を、実験の結果から推測し、説明することができる。＜小学校3年A (1) イ＞	29.4% 【+11.3P】	○同じ体積である物質同士を比べると、軽いものほど容器としてふさわしい。児童は、体積という意味、そして比較することを苦手としている。 ●算数科における「単位量あたりの大きさ」も要素としてある。指導としては、同じ体積であるという条件のもとに、重さを比べるという条件についておさえきれない傾向にある。	＜もの重さ (2月)＞ もの体積と重さの実験の際に、得られた結果を比較し考察する過程の中で、体積は同じであっても重さが違うことがあることを捉えさせる。逆にものは形が変わっても、重さが同じ場合があることもおさえる。上記の2つを混乱しないよう、まとめをしっかりとさせる。	正答率 60%	% 【P】
	知識・技能	80.1 【+4.6】						
	思考・判断・表現	66.4 【+2.5】						
	主体的に学習に取り組む態度	61.2 【+8.6】						